

令和5年度の学校評価反省

＜本年度の重点目標＞				
1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善				
2 自立と社会参加に向けた豊かな学びの実現				
3 つながりのある教育活動の推進				
4 安全で安心できる学校づくりの推進				
5 働き方改革の推進				
学部	重点目標	具体的方策	留意事項	反省・次年度へ向けて
幼小学部	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善	・タブレット端末などを活用し、新しい生活様式に対応した内容・方法で、幼児児童の興味・関心を促す授業づくりを行う。 ・授業の流れを明確にし、幼児児童が主体的に活動できるよう支援していく。	・動画を交えたり、プレゼンテーションソフトを使って見やすく示したりするなど、タブレット端末を活用した授業を行う。 ・幼児児童が見通しをもって取り組むことができるように、視覚支援や授業の構造化を行う。	・タブレット端末などを活用して幼児児童の興味・関心を引き出す授業づくりをしたり、幼児児童が主体的に活動できる支援実践することができた。今後は、幼児児童の生活がさらに豊かになるよう、児童自身がタブレット端末などを活用する場面のある授業をつくっていきと良いと思う。
	自立と社会参加に向けた豊かな学びの実現	・家庭と連携しながら、幼児児童の食事に関する実態を捉え、個々に応じた支援を行う。 ・食事の仕方やマナーに関する目標を月ごとに設定し、学年日よりや掲示板上で保護者や幼児児童に周知していく。	・幼児児童の取組の様子を学年日より連絡帳で保護者に伝え、家庭でも意識できるようにする。 ・掲示版を活用し、教職員・幼児児童が同じ目標を意識して学習に取り組むことができるようにする。	・周知の場を設けたことで、幼児児童のみならず、保護者や職員同士で重点目標を意識することができたと考えている。教室で食事の仕方やマナーに関する力を育てるための課題に取り組んでいた場合に豊かになった。このような取り組みが教室や家庭で増えていくよう、引き続き周知を重視していきと良いと思う。
中学部	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善	・生徒の実態や自立活動のねらいを学年で共有する。 ・学年が取り組んでいる自立活動の内容を録画する。 ・取り組んだ結果など、生徒の実態を学年会などで共有し、授業改善の一助にする。	・各学年で取り組んでいる内容を資料にまとめる。	・個別の自立活動のねらいを一覧にし、学年内で情報共有することができた。自立活動部に、中学部の自立活動の授業について撮影を依頼し、職員全員が視聴できる機会を設けた。普段、見る機会の少ない他学年の取り組みを知り、参考とすることができた。自立活動の指導の成果を記録した資料を作成し、情報共有を図ることができた。しかし、成果の記録を周知する時期が遅くなり、その後の授業改善や成果についてまとめることが困難であった。評価、反省の時期について調整する必要がある。今後は、複数の職員で指導の効果について評価し、改善につなげていけるとよい。
	自立と社会参加に向けた豊かな学びの実現	・日常生活の指導や休み時間などの時間に掃除に取り組む。 ・床や廊下のほうきがけや雑巾がけをしたり、机の濡れ拭きや空拭きをしたりする。	・学級に在籍する生徒の実態に応じて掃除内容を考える取り組み。 ・清掃活動を通じて、身辺を整理整頓する意識を養う。	・日常生活の指導を中心に、清掃活動に継続して取り組めた。清掃方法や道具の扱い方を繰り返し練習し、自分でできることが増えた。役割の設定や共有スペースの清掃などにより、社会参加に向けた学習を意識的に取り入れることができた。各学級で清掃活動に取り組むことはできたが、今後は実践方法や成果を共有する機会を設けられるとよい。
高等部	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善	・生徒自身が見通しをもって取り組み、主体的に学習活動を振り返って次につなげられるよう、学習内容を明確にする。 ・自己の考えを広く深められるよう、他者と協働し学び合う取組を様々な学習場面に取り入れる。 ・発問の内容や仕方を工夫することで、生徒一人一人の見方や考え方を引き出し、理解力や思考力の向上につなげる。	・必要に応じて学習過程を見直すことで、生徒一人一人の興味・関心、課題等に応じた学習環境を整える。 ・学習内容や生徒情報について、適宜情報を共有し共通理解を図ることで、一貫した指導・支援を行う。	・生徒の実態に合わせて学習目標を設定したり、個別の配慮事項を学年会、部会等で共有したりすることで、生徒の主体的な学習活動や他者との関わり合いの充実を図ることができた。今後は、個々の生徒の実態を適切に把握・共有することで、より充実した授業実践を行っていきとよい。
	自立と社会参加に向けた豊かな学びの実現	・学校生活全般において、社会人としての自覚をもてるような体験や学習を多く取り入れる。 ・生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、それに最も的確に応えられるような取組を様々な学習場面に取り入れる。	・日々の授業や実習など、より具体的な場面を示すことで、社会人としてのマナーの必要性を理解し実践できるようにする。 ・生徒の障害特性や課題等について、教師間で共通理解を図り、一貫した指導・支援を行う。	・学校生活全般において社会人としての基本的なルールやマナーなどを学習する場面を設定した。校内実習や産業現場等における実習などの実践的な学習活動を通して、生徒が「働く」ことをより身近に感じ、普段の学校生活においても社会人としての意識が高まった様子が見られた。指導にあたっては引き続き、生徒の適切な実態把握に努め、教育的ニーズを教員同士が共通理解したうえで指導にあたるよう、部全体で連携・協力していきとよい。
施設内教育 けやき	つながりのある教育活動の推進	・主治医、病棟職員、その他関係諸機関との情報交換・共有や保護者との懇談などから児童生徒の実態把握に努め、指導・支援の充実を図る。 ・前籍校から個々の目標や実態に関する情報を、児童生徒の転入時に速やかに得るとともに、関わる職員全体で共有し、支援の在り方について検討する。 ・転出先職員と退院後の学校生活における有効な指導・支援等について連携を図る。	・教育相談や各カンファレンスを通して児童生徒の実態把握に努める。 ・病棟職員と連携して児童生徒に関する情報共有を行う。 ・児童生徒転入時は、前籍校からの情報を整理して職員間で共有するよう努める。 ・退院前カンファレンス等を通して得た児童生徒に関する情報を転出先職員と共有するよう努める。	・小中学部が連携して共通理解のもと児童生徒に対応することが常時必要である。そのため、朝の打ち合わせでの連絡や教育相談等の記録、カンファレンスの記録などの回覧、授業前の引き継ぎなどを行ってきた。今後は教職員間の連携を密に行う必要がある。 ・円滑な前籍校への移行をするために、試験登校時の記録のやり取りや連絡、前籍校を含めた関係諸機関との退院前カンファレンス等を通して情報提供、交換を行う。
	安全で安心できる学校づくりの推進	・災害時の避難方法や捜索時のマニュアルの見直しをし、病棟や学校と連携した訓練を行う。 ・施設内教育の児童生徒の実態や学習への取組、学習内容などについて本校職員に周知する。	・災害時の避難方法や捜索時のマニュアルの見直しを行い、それを基に訓練を行う。 ・児童生徒の実態や取組等を本校職員に周知するため、通信を作成して回覧する。	・実際の災害時や捜索時に連携していくためにも、病棟や本校との協体制度を深め、子どもたちの安全を守れるようにする必要がある。 ・新しく通路ができ、避難経路を追加した。火元から遠い場所から避難することを原則とし、安全かつ円滑に児童生徒が避難できるように病棟と連携して訓練を実施したい。
施設内教育 こぼと・中央	つながりのある教育活動の推進	・児童生徒の個々の目標や実態に関する情報を、保護者との懇談や前籍校からの情報を得て、関わる職員全体で共有する。また、主治医、病棟職員、その他の関係諸機関とも情報交換・共有して実態把握に努め支援の充実を図る。 ・退院後、卒業後の関係機関との情報交換をしてききれない支援を図る。 ・こぼと・中央学級の教育活動を本校の職員に通信などで周知する。	・送迎時の保護者、病棟職員との受け渡しや連絡帳でのやり取りを基本にし、さらに定期的に行われる病棟職員との連絡会等やリハビリの見学等により連携を深める。 ・前籍校、卒業後の進路先と必要に応じて連絡を取る。	・前籍校との情報、資料のやり取りに時間がかかって十分に活用できないことが多い。児童生徒の指導に生かすため、資料を円滑に送ってもらえるように一層働き掛けてもらう。
	安全で安心できる学校づくりの推進	・児童生徒個々の状況を把握し、支援方法を職員間で確認・検討し安全に学習活動ができるようにする。 ・新型コロナウイルス感染症対応など感染症等の対策や危険な箇所があれば改善するなどして教室環境を保つ。	・児童生徒一人一人の教育活動が円滑に行われるよう、職員間で情報交換をする。 ・職員の健康管理、手指消毒、教室環境の整備をする。	・こぼと棟、中央病院との連絡会で情報の共有や確認をしているが、病棟職員全体として統一した情報共有は難しい面もあった。常日頃から必要に応じてその都度電話や文章などで確認し、円滑な教育活動につなげられるように、より丁寧にコミュニケーションを図る。
各重点目標の具体的方策と留意点				
1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善				
担当分掌	具体的方策	留意事項	反省・次年度へ向けて	
自立活動部	・自立活動の年間指導計画様式を見直し、幼児児童生徒一人一人の指導計画をより明確に記載できるようにする。	・氏名、目標、内容を個別に記載できるようにする。	・個々に目標や指導内容の異なる自立活動に適した様式に改善できた。	
研修部	・育成を目指す資質・能力を意識し、年間指導計画の作成や授業内容の検討をし授業改善を行うようにする。	・令和4年度に作成した年間指導計画を生かし、授業内容についても育成を目指す資質能力を意識できるようにする。	・年間指導計画の作成を通して、三観点を意識することはできたが、授業内容に反映させた取組の難しさがあつた。授業づくりにおいても意識し、実践に生かしていける働きをしていきたい。	
教務部	・学習指導要領に示されている育成を目指す資質・能力の三観点を意識した授業改善を図り、タブレット端末を活用して幼児児童生徒一人一人が主体的に学習できるようにする。	・年間指導計画や個別の指導計画を含め、三観点を明確にし、意識しやすいようにする。 ・ICT機器の活用を積極的に促し、生徒が興味・関心をもって学習できるようにする。	・年間指導計画を簡略化し、三観点を明記するようになったが、共通理解をもって取り組めるよう、その都度説明していききたい。 ・タブレット端末を活用しての授業も増えている。情報とも連携し使用できるアプリ等の伝達を行っていききたい。	
2 自立と社会参加に向けた豊かな学びの実現				
担当分掌	具体的方策	留意事項	反省・次年度へ向けて	
自立活動部	・自立活動の指導の観点からアセスメントシートを作成し、指導計画の参考となるようにする。	・自立活動の6区分27項目を基に、チェック項目の内容を整理する。	・令和4年度まで幼、小、中学部で活用していた「自立活動チェックシート」「プロフィールチェックリスト」の設問内容について改善し、自立活動の区分、項目で整理することができた。次年度、指導計画においてのチェックシートの効果について、職員アンケート調査を実施する。 ・チェックシートの内容に合わせて、実施する、しないについても検討いただき、丁寧に計画を進めることができた。必要性があるため実施となったと認識している。 ・幼、小、中学部については既存のチェックシートを新規のものに変更したため、以前と比べ業務量に大きな差はない。設問数を削減しているため、入力量は減っている。チェックシートの入力については担任以外でも行つてよい。職員間で連携して行つていただきたい。作成時期は残業時間の増加につながらないよう配慮している。年度初め頃の作成が望ましいことは、校務部としても認識している。よりよいアセスメント方法があれば、情報提供いただきながら検討していく。 ・チェックシートには継続的な指導を行っていくための引継ぎ資料としての役割もある。必要性について個人差があるわけではない。正しい理解を得られるよう、学習指導要領の内容について情報発信をしていく。 ・幼児児童生徒の実態によってチェックシートの効果が得づらい場合もあるかと思われる。対応について今後検討する。 ・けやき学級については、チェックシートの様式を現在作成中。	
視聴覚部	・教員から購入希望アンケートを行い、購入計画に反映させるとともに、読書月間に特集が組めるよう計画し、蔵書の充実を図る。 ・グループウェアでの図書室だよりの配信や、掲示物を使った情報発信だけでなく、幼児児童生徒も参加したおすすめ本の紹介や、読書感想文の掲示等の読書活動推進を充実する。	・購入する際は、教育活動に役立つかどうかを吟味する。 ・本をそろえるだけでなく、読書に対する意欲が高まるような特集を計画する。 ・幼児児童生徒が進んで参加するような活動心掛ける。	・栄養教諭から提案していただき、連携して行うことができた。 ・次年度に向けて同様の活動だけでなく、新たに子どもたちの興味を引いて、より読書活動を推進できるような活動を計画していく。	
研修部	・研究テーマに基づく研究を推進することで、育てたい幼児児童生徒像の実現を目指す。 ・現職研修の内容の充実を図り、専門性の向上をする。	・各部の教育目標を意識できるように全校に発信をする。 ・各校務や外部機関と連携をし、よりよい研修内容について検討をする。	・研修内容については、より実践に生かせる研修内容の検討が必要であった。 ・今年度の反省を生かし、次年度については、障害特性や児童生徒の具体的な支援につながる研修内容を検討していききたい。	

生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> いじめの防止・早期発見を組織的・計画的に実践する。 「自分がされていやなことは、人にしない、言わない」を全校共通の約束として周知する。 「いじめ防止基本方針」に基づき、組織的・計画的な取組を実践するとともに、幼児児童生徒の変化を見逃さない迅速な対応をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめ」の定義や認知についての共通理解を徹底する。 内容・計画等についての周知徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 共通の約束をとおして、いじめについて案件は、出なかった。しかしながら、誹謗中傷等友達同士のSNSトラブルや付き合い方についての問題は発生した。その際には、担任、保護者の連携を密にし対応することで、早期発見にも努めることができた。 いじめ防止基本方針を年度当初に全職員に説明し周知することや、ホームページに掲載し情報を提供することで、取組についての対応が周知できた。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 将来の社会生活、働くことに必要な力として、元気な挨拶や身だしなみ、健康管理・規則正しい生活リズムの定着、ルール・マナーの遵守、自立に向けての指導・支援を学校生活全般や作業学習、進路学習にて行っていく。 社会参加の第一歩として、幼児児童生徒が校外学習や職場体験、現場実習等を経験し、社会生活への意識を促していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活全般を通して体験的に身に付けられるような指導を行う。 地域の企業や事業所の協力を得て体験や見学場の設定し、経験の機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業学習や進路学習において社会生活や働く際に必要な力として、元気な挨拶や身だしなみ、健康管理・規則正しい生活リズムの定着、ルール・マナーの遵守について伝えることで、前向きに意識して自分のこととして普段の生活から実践する生徒が増えた。今後も引き続き指導していきたい。進路指導部としては発信が少ない面があったので、連絡・教員研修・授業にてもっと伝えていきたい。
保健体育部	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい食習慣や、けが・病気をしない生活習慣の定着に向けて、情報発信や部・学年との連携を図りながら指導・支援の充実を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 食育日より保健日より、保健関連教材などを有効活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 食育日より保健日より、廊下の掲示物、保健指導のための教材提供など、積極的な情報発信ができた。 次年度は、食に関する相談事業を新たに立ち上げ、担任や保護者に寄り添った支援を組織的に進めていく予定である。
3 つながりのある教育活動の推進			
担当分掌	具体的方策	留意事項	反省・次年度へ向けて
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 職業安定所や関係諸機関と連携し、企業及び福祉事業所を対象とした学校見学会や進路講話会を実施して学校の様子を知ってもらい、社会や地域への円滑な移行に向け、連携を強化する。また地域との連携や情報交換、移行支援に打ち合わせも進めていく。 保護者に向けて、進路講話会、説明会、進路掲示板、広報誌を通して情報発信に努める。教職員に向けた情報発信とともに本校の進路の流れ、事業所の形態や実態について知識を深めることができるように努める。職員研修会や学年会等で進路情報を発信したり、意見交換したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の関係諸機関との連携を密にして、協力を得ながら情報交換を積極的に行う。 掲示板の充実を図り、情報発信を行い、必要な情報が得やすい環境を整える。タブレット端末や職員室内の掲示板を活用し、情報を発信する。また、移行段階でのつまづきや課題等を共有し、在校生への指導に生かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 就労先や関係諸機関と連携し、移行支援会議や進路に関する情報交換会を開き、生徒の社会や地域への移行や支援を進めることができた。また企業及び福祉事業所を対象にした学校見学会を開き、生徒の様子を見てもらい、新たな就労や実態、支援の理解につながった。今後も関係諸機関の連携や学校見学の実施を進めていきたい。 現職研修にて幼小部から高等部までの進路の流れ、関係機関との関わり、各部の段階で身に付ける力、卒業後に必要な力を確認し、共通理解ができた。保護者への啓発として、進路説明会や進路講話会、掲示板等で幼小部や中学部の早い段階から、就労に向けての活動や地域との関係機関との関わりでの必要性、必要な力を伝えて周知することができた。高等部でも、進路説明会での説明や保護者との懇談、職員間で進路の課題について話し合い、生徒の実態に合わせた進路指導を考えていくように確認ができた。今後も教員や保護者への進路情報の発信、学年との進路の連携を図っていきたい。 今年度一部生徒の進路や関係機関との引継ぎの遅れ、職場開拓の困難さがあり、進路指導部の体制の見直しが必要と考える。以前のように主事の二人体制も検討し、きめ細かい関係機関との連携や部・学年との進路の情報提供や話し合いを進めていきたい。
地域支援部	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達について悩みをもつ保護者や、地域の小・中学校・高等学校等に対して、発達障害児等支援・指導検討会や巡回相談やあゆみ相談を行ったり、特別支援教育についての情報発信を行ったりして、センター的機能についての役割を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援につながる資料や教材・教具を精選し、相談の内容に応じて提示できるようにする。 可能な限り、研修などに参加し、職員の資質向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害児等支援・指導検討会や巡回相談、あゆみ相談を通して、地域の悩みをもつ保護者や学校関係者と特別支援教育についての理解を推進できた。 相談業務にあたる職員の高い知識と、様々な課題を抱える子どもの保護者、学校関係者の気持ちに寄り添うことができる人材育成を進めていきたい。
4 安全で安心できる学校づくりの推進			
担当分掌	具体的方策	留意事項	反省・次年度へ向けて
総務部	<ul style="list-style-type: none"> 学用品の購入手続きの仕方を提示して、学用品費の処理が円滑にできるようにする。 幼児児童生徒が学習の過程や成果を発表できる場（体育館や遊戯室等）の準備において、事前に準備計画や手順を伝えて、滞りなくできるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学用品の購入手続きにおいて、庶務部と連携を図りながら進める。 スクールエンジンを使用して、事前に準備計画や手順を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学用品の購入手続きにおいて、庶務部と連携を図りながら進めることができた。来年度も記入例を提示したり、「学用品費で購入しないものについての方針」や「学用品購入伺書についての注意事項等」を周知したりして、学用品費の処理を円滑に進めていきたい。 春陽まつりの全体準備や後片付けにおいて、職員の協力のおかげで滞りなく進めることができた。今後も事前に計画・手順を分かりやすく伝えていきたい。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> 防犯・防災等緊急時に対する意識向上と対策の充実を図る。 訓練や現職研修の計画的な実践と内容等の工夫を通して、防犯・防災等緊急時に対する教育の更なる充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容・計画等についての周知徹底を図るとともに、変更点について重点的に説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時対応について、実施計画立案の工夫や研修での確認により幼児児童生徒及び教員の意識を高めることができた。 訓練や研修では、職員の動きや配慮事項など反省点も出たため、次年度さらなる充実にも努めるとともに保護者を含め意識を高めていきたい。
保健体育部	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育の授業や部活動などにおいて、運動特性を考慮しながら、柔軟性やバランス能力の向上など、けがをしにくい体づくりを推進する。 学習環境の整備・点検、職員間での情報共有を強化し、事故につながる危険因子ゼロを目指す。 感染状況に応じた適切な新型コロナウイルス対策を講じ、安心安全な学習環境の確保を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報提供や共通理解、新たな取組などについての周知徹底を図る。 関係各所との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校管理下における事故等による病院受診、保健室来訪件数ともに、前年度と比べて大幅に減少した。特に、運動時における重症事例がほぼなくなった。しかし、命の危険に直結する頭部への衝撃によるけがが増えたため、引き続き、危険因子の排除に努めたい。 学年、学級の理解と協力により、新型コロナ5類変更に伴う感染症対策を大きな混乱もなく移行することができた。
地域支援部	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関や福祉サービス等について集約し情報発信したり、活用できる地域の資源に職員や保護者をつないだりし、他機関との連携に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて関係機関につなぎ、地域の資源を有効活用するよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 現職研修を通して、校内支援でできることを周知することができた。 各部で抱えている児童、生徒の諸課題について、各関係機関につなぎ、今後も継続した支援をしていく必要がある。 引き続き、校内支援の在り方を発信するとともに、困難さを感じたときの対応、支援策を一緒に模索していきたい。
5 働き方改革の推進			
担当分掌	具体的方策	留意事項	反省・次年度へ向けて
視覚部	<ul style="list-style-type: none"> Teamsやグループウェア、その他ICT機器の利活用を促進し、会議や打ち合わせ等の負担軽減や、授業での機器利用の利便性を向上させる。 必要な機器について職員の意見を聞き、更新される機器に意見を反映させてより利便性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修部と連携した全校規模の研修や、小規模な講習会等、計画を立てて様々な形で実施する。 意見の方向性を見て、より必要とされる機器を選定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中の自主研修で、Teamsを取り扱った。また、こばと・中央での活用のため、児童生徒用iPadでのTeamsの利用について、簡易の研修を行った。 新しいTeamsが全ての教員用タブレットに自動的にインストールされたので、基本的な利用法を全員が理解できるようにする。 次年度の購入希望物品に、職員からの意見を反映させる。
総務部	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検において、施設設備の定期点検確認表のデジタル化を進めて、業務改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 点検確認表が使いやすいように改善を図る。 火気取締責任者一覧を基本に、点検箇所を担当を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 火気取締責任者を基本に担当を決めて取り組んだ。今年度より、施設設備の定期点検表のデジタル化を進めることができ、点検表の印刷や配付、回収、集計などの負担を軽減することができた。しかし、点検表への入力忘れが見られたため、点検表の見直しや入力促進に取り組んでいきたい。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画の様式を見直し改善を図る。 教務関係書類のマニュアルを見直し、改善と明確化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内で統一した様式の検討と改善を図る。 教務関係の提出書類についてマニュアルを明確化することで、書類作成の負担が軽減できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画の様式などについては、検討段階で改善をするところまで到達できていないため、今後も統一改善に向けて取り組む。 教務マニュアルについては、どうしても細かくなってしまい、伝わりにくい部分もあるため、継続して改善に努める。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> 内部評価による本年度の評価結果について 保護者アンケートの結果について 在校時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化及び教職員のメンタルヘルスの保持に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員のライフワークバランスに十分に配慮しながら業務改善を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善、深い学びの実現、つながりのある教育活動に、ICT機器の活用が有効であった。 進路に関する必要な情報の提供が十分ではないという評価結果であった。情報の発信を充実させる。 マニュアルの見直しや事務処理のデジタル化は、次年度も改善に向けて取り組んでいく。